

世界の国々と日本の国際協力

自分の主張や意見をつくる時の評価基準

S

世界の人々のためにできることについて2つのじく（将来できそうなこととすぐできそうなこと、世界でおこなうことと国内でおこなうこと）で整理することができていて、整理したことを関係付けて、世界の人々のためにできることについての考えを書けている。

A

世界の人々のためにできることについて整理することができていて、世界の人々のためにできることについての考えを書けている（分類による気づきを根拠に説明はできていない）。

B

世界の人々のためにできることについて整理することができているが、世界の人々のためにできることについての考えを書けていない。

C

世界の人々のためにできることについて整理することができていない。

具体的な記述の例

「分類と気づき」

世界でおこなうことで将来できそうなことは、NGOや青年海外協力隊で活動すること。
世界でおこなうことですぐにできそうなことは、時間や経済的な問題で少ない。
国内でおこなうことで将来できそうなことは、外国の人に日本語を教えるなどすること。
国内でおこなうことですぐにできそうなことは、ぼ金の呼びかけやぼ金をすること。

「自分の考え」

世界の人々のためにできることを整理・分類したら、現在と将来でちがうことがわかった。
今すぐできることは、ぼ金に参加したり、切手を集めたりすること。
そのほかにも世界の国々の現状を知って伝えることもできる。
また将来的には、国際協力について情報を得て、世界の国々の問題解決に取り組めるようにしたい。

「分類と気づき」

将来できそうなことは、NGOや青年海外協力隊で活動すること。
すぐにできそうなことは、国内でぼ金すること。

「自分の考え」

世界の人々のためにできることはぼ金すること。ぼ金は国内でできるし、すぐにできそう。
NGOで活動することは、すぐには難しそう。

「分類と気づき」

将来できそうなことは、NGOで活動すること。

「自分の考え」

世界の人々のためにできることはたくさんある。
※説明が不十分

「分類と気づき」

分類できていない（書けていない）

「自分の考え」

わからない（書けていない）